

やさしい中国医学の総て (基礎と臨床)

—— 神髄を探る ——

学校法人後藤学園
中医学研究部部长 兵頭 明

前言

- 一、中国医学の全体像とは..... 1
- 二、診察システムと診断システムとの関係について..... 1
- 三、診断システムと治療システムとの関係について..... 1
- 四、手技について..... 1

第1章 治療システムについて

- 一、経絡と経穴分布の法則性..... 2
- 二、経絡経穴の主治法則..... 2
 - 【臨床応用の例】..... 2
 - 【経絡選穴について】..... 3
 - 【ダイナミックニツク】..... 3
 - 【ツボの作用】..... 3
 - 【ツボのメカニズム】..... 3
- 【小結】臨床への応用..... 3
 - 例1 経絡病証(経絡病証)への応用..... 3
 - 例2 臟腑病証への応用「虚寒反応の現れやすい経穴」..... 3
- 三、経絡と経筋の相関性..... 4
- 四、六腑病証はどうか..... 4
- 五、選穴法について..... 4
 - 1、弁証選穴..... 4
 - 2、循経選穴..... 4
 - 3、対症選穴..... 4
 - 4、局所選穴..... 4
 - 5、経験選穴..... 4
 - 六、配穴について..... 4
 - 1、弁証配穴について: 臟腑気血病証に対して用いられる..... 4
 - 2、循経配穴について: 経絡・経筋病証に対して用いられる..... 4
 - 3、対症配穴について: 五臟病証に対して用いられることが多い..... 4
 - 4、局所配穴について: 臟腑病証に対して用いられることが多い..... 4
 - 5、募合配穴について: 六腑病証に対して用いられることが多い..... 4
 - 6、局所配穴について: 局所の改善を目的に用いられる..... 4

第2章 診察システムと診断システム

- 5

一、生理観をベースとした診察・診断システム

- 1、生理と病理の関係..... 5
- 2、弁証の進め方..... 5
 - ①弁証のポイント(原因、どこ、何が、どうなっている)..... 5
 - ②診断システムと治療システムとの関係【処方】..... 5
- 1、診断システム【レベル1】..... 治療システム【レベル1】..... 5
- 2、診断システム【レベル2】..... 治療システム【レベル2】..... 5
 - ③レベル10551F..... 5
 - ④レベル20251F..... 5
 - ⑤レベル20例..... 5

二、病位の把握の仕方

- 【演習1】病位把握のための問診表を作ってみよう..... 5
 - A、肝病証の診察のポイント【病位情報】..... 5
 - B、心病証の診察のポイント【病位情報】..... 5
 - C、脾病証の診察のポイント【病位情報】..... 5
 - D、肺病証の診察のポイント【病位情報】..... 5
 - E、腎病証の診察のポイント【病位情報】..... 5
- 【演習2】自己チェックをしてみよう..... 6
 - 1、五行スコア..... 6
 - 2、健康度チェック表..... 6
 - 3、サチイカエーゴジ社の手診表でチェック..... 6

五行スコア【明治鍼灸大学制作】

- ◆肝スコア..... 6
- ◆心スコア..... 6
- ◆脾スコア..... 7
- ◆肺スコア..... 7
- ◆腎スコア..... 7

【付録】舌診について

三、基本病理の把握の仕方

【寒熱弁証】について

- 四、診断システムと治療システムの実際..... 8
 - 【レベルへのチャレンジ】..... 8
 - 【診察・弁証のポイント】..... 9
 - 【弁証論治システムの実際】..... 9
 - 1、気虚グループを例として..... 9
 - 2、陰虚グループを例として..... 9
 - 3、血虚グループを例として..... 10
 - 4、寒熱グループを例として..... 10

五、効能別【穴性】を把握しておく臨床応用がしやすい。

- 【まとめ1】臟腑病証に対する選穴モデル..... 10
- 1、臟腑証治の選穴ポイント..... 11
- 2、陰陽証治の選穴ポイント..... 11
- 3、気血証治の選穴ポイント..... 11
- 4、痰湿風火証治の選穴ポイント..... 11
- 【まとめ2】五臟病証を例とした配穴ローニツク..... 11
 - 1、肺気虚の場合は..... 11
 - 2、肺陰虚の場合は..... 11
 - 3、肝陰虚の場合は..... 11
 - 4、腎気虚の場合は..... 11
 - 5、腎陰虚の場合は..... 11
- 【まとめ3】肝病証を例として..... 11
 - 1、肝虚..... 曲泉、太衝、肝俞など..... 11
 - 2、肝実..... 行间、太衝、肝俞..... 11

第3章 手技について..... 12

資料1 手技に関する資料.....	12
列入角度の問題.....	12
① 催気法について.....	12
② 刺腕量について.....	12
資料2 補瀉手技について.....	12
①捻転については「親指を前に出すと補、親指を後ろに引くと瀉」.....	12
②提挿については「入れると補、出すと瀉」.....	12
1. 捻挿補法と捻挿瀉法.....	12
2. 捻転補法と捻転瀉法.....	12
3. 提挿補法と提挿瀉法.....	12
4. 絞補法と絞瀉法と応用.....	12
【説明】.....	12
資料3 他の手技についての紹介.....	12
1. 刮法.....	12
2. 彈法.....	12
3. 順法.....	12
4. 敵法.....	12
5. 飛経走気法〔三進一退、一進三退〕.....	12
資料4 専門領域の開拓（専病専治）.....	13
1. 脳血管障害（牧田ヒラ子）：統合リハビリの一例.....	13
2. 高齢者医療.....	13
①認知症予防、転倒予防、誤嚥予防など.....	13
A) 緑内障.....	13
B) カウチヘルニア.....	13
3. 臨床応用例/概念理論を使った治療例.....	13
①東北大学大学院医学系研究科 関 隆志先生の研究.....	13
4. 「高齢者のための中国伝統医学」.....	13
①腎精不足.....	13
5. 治療困難な誤嚥性肺炎.....	13
6. 嚥下反射を改善する足三里と太谿への鍼治療.....	13
7. 太谿と足三里の鍼治療の嚥下造影検査による検討.....	13
8. 転倒予防.....	13
9. 【小結】老人疾患に対する鍼灸治療.....	14
資料5 資料4と関連させて.....	14
資料6 選穴、配穴の重要性.....	14
【鍼灸処方・配穴パターンニング】.....	14
1. 補中益気方〔合谷、足三里〕.....	14
2. ハ珍方〔合谷、三陰交〕.....	14
3. 人參養栄方〔合谷、三陰交、神門〕.....	14
4. 喘腫方〔三陰交、神門〕.....	14
5. 腎氣方〔関元、復溜、腎俞〕.....	14
6. 清胆瀉肝方〔太衝または行间、丘墟、陽谿泉〕.....	14
7. 行気活血方〔関使、三陰交〕.....	14
8. 痰湿方〔陰谿泉、壺隆〕.....	14
9. 滋陰清心方〔神門、復溜〕.....	14
【健康度チェック表】.....	14

2007年9月16(土)～17(日) 弦誦塾セミナー 講演資料
 やさしい中国医学の総て(基礎と臨床)—— 神髄を探る ——
 発行: 斎藤傳明(弦誦塾塾長)
 制作総監督: 兵頭明(学校法人後藤学園/東京衛生学園専門学校・中医学研究部部長)
 制作編集: 齋藤隆裕(学校法人後藤学園/東京衛生学園専門学校・中医学研究部)
 協力: 弦誦塾
 学校法人後藤学園/東京衛生学園専門学校
 不許複製

前言

一、中国医学の全体像とは

本日は「やさしい中国医学の総て(基礎と臨床)—— 神髄を探る」というテーマをいただきました。「総て」といっているので、総てをご紹介したいのですが、私一人で総てをご紹介するには、テーマが大きすぎます。ここではできるだけわかりやすく、中国医学のシステム、つまり診察・診断システム、治療システムの全体像をご紹介させていただきたいと思っています。全体像が見えてくると、基礎と臨床の整合性も見えてくると思っています。

二、診察システムと診断システムとの関係について

臨床にあたっては原因の解明はもちろんのこと、病位と病態の把握、つまり証を決定するために、どのような診察システムを持っているかがポイントになるでしょう。この診察システムと診断システムが一体化しているわけです。そしてその診断システムと一体化した治療システムは、中国医学の場合はそのようになっているのか、簡単に紹介させていただきます。

三、診断システムと治療システムとの関係について

当然のことながら治療をする場合、迷いがあってはいけません。自分の選んだ治療穴には、すべてしっかりとした治療目的がなければなりません。自分がどの角度から、何を、どのように調節するのか、治療するのか、患者さんにその説明もできなければなりません。イギリスで開業している知人によると、その説明がなければ、患者さんは治療を拒否するそうです。治療家として信頼してもらえないということになります。また治療穴の選び方には、いろいろな法則があります。まず古典にもとづいた治療穴の選び方ができるようにすれば、すぐに臨床に応用ができるようになります。さらに歴代の治療家の経験を加えることによって、自分の治療に大きな幅をもたせることができるようになるでしょう。

四、手技について

自分の選んだ治療穴にはすべて治療目的があるわけですから、その実現にむけ最終の仕上げが手技ということになります。そして手技を施すことによって患者さんは様々な反応を示します。術者の手に伝わる反応と、患者さんが示す反応にたえず注意を払う必要があります。本日は静的な補瀉手技、動的な補瀉手技、その他の補助手技などについても紹介させていただきます。

第1章 治療システムについて

一、経絡と経穴分布の法則性

なぜ体にはツチナル(ツボ)反応が現れるのか。その現れかたには、実は一定の法則があるのです。体に張りめぐらされた情報伝達システム、それが経絡の分布であり、その経絡の分布を把握すると、体のいろいろなツチナルが、何を教えてくれているのかがわかるようになるわけです。またこのツチナルが現れやすい部位が経穴(ツボ)であり、したがって経絡と経穴の関係を把握することができれば、診断への応用、そして治療への応用が可能となってくるわけです。

二、経絡経穴の主治法則

まず経絡の主治法則についてですが、Xという経絡はXという臓腑につながっています。これはXという経絡がXという経絡の病証と、Xという臓腑の病証を主治できるということです。原則としてはXという経絡上のどの経穴も、大なり小なりXという経絡病証と臓腑病証に効果があるということになります。

例えば、Xという経絡にA〜Fという経穴があるとします。このA〜Fという経穴に共通する作用は何かというと、X経の経絡病証とXという臓腑病証を主治する、ということになります。ただしX経のA〜Fという経穴には、さらにそれぞれ得意とする主治症があり、それによって様々な要穴として位置づけられているのです。Yという経絡についても同様のことが言えます。

横のラインで見てみるとどうでしょうか。例えば、X経のB穴とY経のB穴が穴穴であつたとします。B穴には、身熱を主治する作用、つまり清熱作用があるので、X経のB穴はX経の熱証とX臓の熱証を主治することができます。Y経のB穴はY経の熱証とY臓の熱証を主治することができるということになります。これが経穴の主治法則と言われているものです。

【臨床応用の例】

臨床応用をしてみましょう。例えば、足陽明胃経の滎穴である内庭は、胃経の熱や胃熱を清熱したい時に選穴することができます。足厥陰肝経の滎穴である行间は、肝経の熱や肝火・肝陽を清熱したい時に選穴することができます。また手太陽肺経の滎穴である魚際、肺経の熱や肺熱を清熱したい時に選穴することができます。このことから内庭には清胃、行间には清肝、魚際には清肺の作用があるとされています。

同じようにX経のC穴が原穴であつたとします。このC穴はX経の経絡病証を主治することができますし、X臓の虚寒の病証を主治することができます。Y経のC穴が原穴だとすると、同様にY経のC穴はY経の経絡病証とY臓の虚寒の病証を主治することができます。

こういった法則性をベースにして、足厥陰肝経の原穴である太衝を例として見てみましょう。太衝が肝血虚を主治することから、太衝には補肝、補血の作用があり、肝鬱を主治することから太衝には疏肝の作用がある、肝陽上亢を主治することから太衝には平肝潜陽の作用がある、肝風を主治することから太衝には平肝熄風的作用があるとされています。

【循経選穴について】

次に循経選穴について見てみましょう。先ほど、A～Fの経穴はその経の経絡病証を主治することのできる点述べましたが、このA～Fの中で、特に経絡病証の治療に優れているのが、BとCであるとされています。これは『靈枢』邪氣蔵府病形で紹介されている「榮俞は外経を治す」という考えにもとづいたものです。

経絡の走行している部位に現れる経絡病証は、どこにその反応が出現しやすいかという法則性を『靈枢』邪氣蔵府病形では提示しているのです。

【イマー・ジトニーツカ】

風穴……6穴(風池、風府、風門、風市、鬩風、秉風)

水穴……5穴(水溝、水泉、水道、水分、水突)

氣穴……5穴(氣舎、氣戸、氣衝、氣穴、氣海)

神穴……8穴(神門、神堂、神封、神蔵、神道、神庭、神闕、本神)

【ツボの作用】

風穴は風邪をさばく作用、水穴は水をさばく作用、氣穴は氣を調節する作用、神穴は神を調節する作用があることがわかります。神には精神・意識・思维能力、知覚・痛覚の調節する作用があることから、これらの「神」Jという字のつく経穴には精神・意識の調節、健脳、鎮痛、鎮痛といった作用があることがわかります。

【ツボのイメージ化】

古代の人々は経氣の流れを川の流れて比喩し、溝、渠、水道、池、沢、井、泉、淵、渚など水に関連した語を借用して穴名としています。こういったツボをイメージできますか。

【小結】臨床への応用

例1 経絡病証(経筋病証)への応用

榮穴、俞穴の反応→どの経絡に異常があるか、診察・診断・治療に応用が可
→どの経筋に異常があるか、診察・診断・治療に応用が可

例2 臟腑病証への応用(虚実反応の現れやすい経穴)

原穴、背俞穴、募穴、下合穴
五臓の反応→原穴、背俞穴に現れやすい診察・診断・治療に
六腑の反応→募穴、下合穴に現れやすい診察・診断・治療に

例3 氣血津液病証への応用(病理反応の例→診察・診断・治療に)

氣の問題 →太衝(ストラス)
氣機の問題 →臏中(上焦、胸部)、中腕(中焦、上腹部)、氣海(下焦、下腹部)

血の問題 →三陰交、血海、膈俞など
水湿の問題 →陰陵泉、委陽、中極など
癆の問題 →豐隆、足三里、中腕など

三、経絡と経筋の相関性

経筋というのは経絡の走行と相関している筋群のことを言います。経筋病証は運動器系疾患に多く見られるものです。明治鍼灸大学の篠原昭二教授は、経筋病証の反応が遠位部の榮穴と俞穴に出現しやすいことを臨床上の観察から発見しました。つまり経絡病証も経筋病証も診察のポイントは榮穴と俞穴の反応調査が重要だということがわかります。そして反応が強くて一方を治療のポイントとして採用することのできるのです。反応が強くている遠位部の経穴は、そこに経絡を通じて病理信号が強く現れているわけですから、そこに鍼によって刺激を与え治療信号として患部にフィードバックさせれば効かせやすいこととなります。篠原先生はこういった経筋病証に皮内鍼を応用されています。

四、六腑病証はどうか

もう一つ循経選穴の例を紹介しましょう。先ほど紹介しました『靈枢』邪氣蔵府病形では、さらに「合は内府を治す」という法則性が提示されています。この考えにもとづくと、六腑病証に対しては、合穴を選穴すればよいということがわかります。同篇ではより効果が出やすいように、ここで下合穴を紹介し、六腑病証には下合穴を選穴するように指示しているのです。これらは六腑病証に対して循経選穴を行う場合の理論的根拠とされています。

五、選穴法について

中医鍼灸の選穴法としては、

- 1、 弁証選穴、
- 2、 循経選穴、
- 3、 対応選穴、
- 4、 局所選穴、
- 5、 経験選穴

六、配穴について

- 1、弁証配穴について:臟腑氣血病証に対して用いられる。
- 2、循経配穴について:経絡・経筋病証に対して用いられる。
- 3、俞原配穴について:五臟病証に対して用いられることが多い。
- 4、俞募配穴について:臟腑病証に対して用いられることが多い。
- 5、募合配穴について:六腑病証に対して用いられることが多い。
- 6、局所配穴について:局所の改善を目的に用いられる。

第2章 診察システムと診断システム

二、生理観をベースとした診察・診断システム

1、生理と病理の関係

生理がわからないと、病理はわからない。病理がわからないと、証の決定ができない、ということになります。証の決定ができないと、治療の組み立てができず、対症療法しかできないということになります。証の決定は治療の指針になるものです。

2、弁証の進め方

- ① 弁証のポイント・原因、どこ、何が、どうなっている
- ② 診断システムと治療システムとの関係 [処方レベル1、レベル2]

1、診断システム[レベル1]……治療システム[レベル1]

2、診断システム[レベル2]……治療システム[レベル2]

- ③ レベル1のタイプ
- ④ レベル2のタイプ
- ⑤ レベル2の例

三、病位の把握の仕方

[実習1]病位把握のための問診表を作ってみよう

◆ 診断システムのレベル1とレベル2の診察において、「どこ」に問題があるのかという病位を把握するためには、藏象理論・経絡理論を応用することができます。

A、肝病証の診察のポイント[病位情報]

- ① めまいの有無
- ② 胸脇部の症状
- ③ 口苦の有無
- ④ イライラ・易怒の有無
- ⑤ しびれ・クライシツの有無
- ⑥ 目の症状の有無
- ⑦ 飲酒について
- ⑧ 血圧について
- ⑨ 爪の観察
- ⑩ 涙について

B、心病証の診察のポイント[病位情報]

- ① 心悸の有無
- ② 夢をみるかどうか
- ③ 胸悶感の有無
- ④ 精神状態について
- ⑤ 健忘の有無
- ⑥ 心臓痛の有無
- ⑦ 舌について
- ⑧ 上肢内側の痛み・しびれの有無
- ⑨ 顔色の観察
- ⑩ 汗について

C、脾病証の診察のポイント[病位情報]

- ① 食後腹部の膨満感の有無
- ② 腹鳴の有無
- ③ 食欲の状態について
- ④ 大便の形状について
- ⑤ 痔や脱肛の既往歴について
- ⑥ 内臓下垂の有無
- ⑦ 筋肉の状態について
- ⑧ 四肢の状態について
- ⑨ 腰痛の有無
- ⑩ 偏食について

D、肺病証の診察のポイント[病位情報]

- ① 咳の有無
- ② 呼吸の状態について
- ③ 喘息の有無
- ④ 痰の有無
- ⑤ 鼻の症状について
- ⑥ 喉の症状について
- ⑦ 胸悶感の有無
- ⑧ 感冒について
- ⑨ 浮腫の有無
- ⑩ 汗について

E、腎病証の診察のポイント[病位情報]

- ① 足腰の状態について
- ② 耳の状態について
- ③ 尿について
- ④ 浮腫の有無
- ⑤ 健忘について
- ⑥ 髪の毛の色つや・脱毛について
- ⑦ めまいの有無
- ⑧ 歯の状態について
- ⑨ 性功能の状態について
- ⑩ 発育状態について

[実習2]自己チェックをしてみよう。

1. 五行スコア
 2. 健康度チェック表
 3. マデイカルユーゴン社の予診表でチェック
- [病位と病態をさぐる]十脈診との相関をみてください。

五行スコア[明治鍼灸大学制作]

◆ 肝スコア

1	めまいがすることがありますか	[風]
2	おなかの両わきがはりやすいですか	[胸脇部(部位情報)]
3	気持ちが悪く落ち込みやすいですか。	[情志]
4	イライラしやすいかどうか、怒りっぽいですか。	[怒]
5	手足がしびれたり、ひきつれたり、けいれんしたりしますか	[筋]
6	目が疲れやすいですか	[目]
7	お酒をたくさん飲む方ですか	[肝臓]
8	いやなことがあるとすぐ血圧が上がりますか	[昇発]
9	爪の形や色がふつと変えますか	[筋余、爪]
10	涙が出やすかったり、目がかゆいことがありますか	[目、涙]

◆ 心スコア

1	ときどきしやすいですか	[心、心悸]
2	夢をみやすいですか	[神、血]
3	胸苦しいことがありますか	[胸部(部位情報)]
4	精神的に動揺しやすいですか	[神]
5	舌が荒れやすいですか	[舌]
6	うわごとを言いますか	[神]
7	物忘れしやすいですか	[神、血]
8	心臓部に痛みがたこることがありますか	[胸]
9	腕の内側が痛んだり、だるくなったりしやすいですか	[心経]
10	胸がつかまるような感じになりやすいですか	[胸]

◆脾胃

1	食後にお腹がはりやすいですか	【腹部、部位情報、運化】
2	腸がグルグル鳴ることが多いですか	【運化】
3	食欲がないですか	【受納、運化】
4	下痢しやすいですか	【運化】
5	痔や脱肛になったことがありますか	【昇清】
6	胃下垂などの内臓下垂がありますか	【昇清】
7	腹痛が起こりやすいですか	【腹部(部位情報)】
8	消化不良を起こしやすいですか	【運化】
9	げっぷが出やすいですか	【胃、降濁】
10	胸やけがしやすいですか	【胃、気逆】

◆肺スコフ

1	呼吸がゼンゼンしやすいですか	【呼吸】
2	痰がよくからんだりしますか	【痰】
3	呼吸がしにくいことがありますか	【呼吸】
4	咳がよくでますか	【呼吸】
5	鼻がつまることが多いですか	【鼻】
6	喘息がでることがありますか、または以前にありましたか	【呼吸】
7	鼻炎といわれたことがありますか	【鼻】
8	のどが痛くなったり、腫れたりすることが多いですか	【喉】
9	鼻水がよくでますか	【鼻】
10	声がよくかれますか	【喉】

◆腎スコフ

1	年齢のわりにふけている方ですか	【精】
2	尿の量や回数が多い、または少ないですか	【尿】
3	物覚えがわるいですか	【精、髓】
4	耳鳴りがすることがありますか	【耳】
5	足腰がだるいことがありますか	【腰】
6	音が聞き取りにくいことがありますか	【耳】
7	尿線に勢いがないですか	【尿】
8	小便が切れにくいですか	【尿】
9	足がむくみやすいですか	【水気】

10 長く立っているとすぐに腰が痛くなりますか

【腰、骨】

【付録】舌診について

◆各自の舌診を受診者本人に診てもらう前に、舌質、歯痕、裂紋、舌苔などについて事前
に説明する。各自検査後に、該当するものには拳手をしてもらい、相談に応じるようなスタ
イルにする。受診者が自分の問題として参加してきやすい。

【観察のポイント】観察項目一覧を作っておき、それにチェックを入れる形式とする。

- 1、舌質の赤みの程度→血の量の問題、体内にもっている寒熱の程度のチェック
- 2、舌質の瘀斑の有無→瘀血のチェック(舌質の青、紫、暗、舌下静脈の観察と併用)
- 3、舌の歯痕の有無→元気度、体のパワー度のチェック
- 4、舌の裂紋の有無→体内の必要な水分の量、状態のチェック
- 5、舌苔の量の問題→体内の余分な水分の量、状態のチェック
- 6、舌苔の色の問題→体内の寒熱の程度のチェック

三、基本病理の把握の仕方

◆レベル2◆のアプローチ

気血津液精陰陽の作用やバランス関係といった生理観が必要であり、またそれに対応する治療ス
タイルに精通していなければならぬ。 →鍵はどこまで診断、すなわち証決定をするかにある。

◆レベル1◆のアプローチ

どこが虚しているのか、どこが実しているのか

- 虚には原穴、募穴、背俞穴、母穴
- 実には原穴、募穴、背俞穴、子穴

◆レベル2◆どこで、何が、虚しているのか。どこで、何が、実しているのか。

→「何がどうなっている」というのは、気血津液精陰陽のバランスがどうなっているのかということ。これらの
どれかが「不足」している場合は「虚」といふことになり、また「有余」の状態になっている場合は「実」とい
ふことになり、

→「何が」虚しているのか、実しているのか、これを判断するためには、**基本病理**とそれに出現しやすい症
状・所見をしっかりとアタラシしておく必要があります。

→レベル2◆の治療システムにおいては、それぞれの**基本病理**に列して、どのような治療穴でアプロ
チするかを把握しておく必要があります。

【寒熱弁証】について

陰陽のバランスが人体の寒熱のバランスを決定しています。この陰陽のバランス失調には2パ
ターンあり、1つは一方が強くなってしまふ偏盛、もう1つは一方が弱くなってしまふ偏衰です。陽
については熱メーヅを、陰については寒メーヅをもって、このスタイルにある陽盛、陰盛、陽

衰、陰衰について、どのような寒熱の変化があらわれるかイメージしてみよう。

四、診断システムと治療システムの実践

【レベル2へのチャレンジ】

【ポイント】基本病理と病位情報の活用

【診察・弁証のポイント】

ステップ1: 基本病理が把握できる

ステップ2: 病位情報が把握できる

ステップ3: 同時進行で診察、診断ができる

【弁証論治システムの実践】

1、気虚カテゴリーを例として

【気虚に共通して出現しやすい症状・所見】

息切れ、倦怠、無力感、懶言、自汗、動くと症状が増悪、脈弱

【これに病位情報が加われれば、弁証結果がでてくる】

気虚＋肺情報 ⇒ 肺気虚

気虚＋心情報 ⇒ 心気虚

気虚＋脾情報 ⇒ 脾気虚

気虚＋腎情報 ⇒ 腎気虚

気虚＋心情報＋肺情報 ⇒ 心肺気虚

気虚＋脾情報＋肺情報 ⇒ 脾肺気虚など

【治療システム】

1. 気虚には補気の要穴(足三里、合谷、氣海など)

2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、母穴など

2、陰虚カテゴリーを例として

【陰虚に共通して出現しやすい症状・所見】

五心煩熱、盗汗、口や咽頭の乾き、頬部の紅潮、舌質紅、少苔、脈細数

【これに病位情報が加われれば、弁証結果がでてくる】

陰虚＋肺情報 ⇒ 肺陰虚

陰虚＋心情報 ⇒ 心陰虚

陰虚＋脾情報 ⇒ 脾陰虚

陰虚＋肝情報 ⇒ 肝陰虚

陰虚＋腎情報 ⇒ 腎陰虚

陰虚＋心情報＋腎情報 ⇒ 心腎陰虚

陰虚＋肺情報＋腎情報 ⇒ 肺腎陰虚

陰虚＋肝情報＋腎情報 ⇒ 肝腎陰虚

【治療システム】

1. 陰虚には補陰の要穴(復溜、照海、三陰交など)

2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、母穴など

3、血虚カテゴリーを例として

【血虚に共通して出現しやすい症状・所見】

顔色萎黄・淡白、唇や舌質や爪の色が淡、めまい、四肢のしびれ、脈細

女性では月経量の減少、経色淡、月経後期または閉経

【これに病位情報が加われれば、弁証結果がでてくる】

血虚＋心情報 ⇒ 心血虚

血虚＋肝情報 ⇒ 肝血虚

血虚＋心情報＋肝情報 ⇒ 心肝血虚

【治療システム】

1. 血虚には血証の要穴(三陰交、膈俞、血海など)

2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、母穴など

4、実熱カテゴリーを例として

【実熱に共通して出現しやすい症状・所見】

口渇して冷飲を好む、身熱、顔面紅潮、尿黄、舌質紅、舌苔黄、脈数

【これに病位情報が加われれば、弁証結果がでてくる】

実熱＋肺情報 ⇒ 肺実熱

実熱＋心情報 ⇒ 心実熱

実熱＋脾情報 ⇒ 脾実熱

実熱＋肝情報 ⇒ 肝実熱

【治療システム】

1. 実熱には泄穴や清熱の要穴(合谷、曲池、内庭など)

2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、子穴など

五、効能別「穴性」を把握しておく臨床応用がしやすい。

例1、解表の要穴(風門、大椎、列缺、外関、合谷など)

例2、去風の要穴(風門、大椎、合谷、曲池、風府など)

例3、血証の要穴(三陰交、膈俞、血海など)

例4、利尿の要穴(中極、腎俞、陰陵泉、関元など)

例5、理氣の要穴(間使、太衝、内関など)

例6、調氣の要穴(膻中、中腕、氣海など)

例7、補腎の要穴(太谿、腎俞、復溜など)

例8、去瘀の要穴(豐隆、足三里、中腕、天突など)

例9、滋陰の要穴(復溜、三陰交、照海など)

例10、壯陽の要穴(関元、命門など)

【まとめ1】臟腑病証に対する選穴ポイント

- 1、臟腑証治の選穴ポイント
 - 臟の病証……原穴、背俞穴、母穴、子穴、俞原配穴など
 - 腑の病証……合穴(下合穴)、募穴、募合配穴など
- 2、陰陽証治の選穴ポイント
 - 陰虛……復溜、三陰交、照海など
 - 陽虛……関元、命門など
- 3、氣血証治の選穴ポイント
 - 氣の病証……
 - 氣虛：氣海、足三里(脾俞、太白、合谷)など
 - 氣滯：内関、太衝、間使、臍中、中腕、氣海など
 - 氣逆：足三里、尺沢、内関、公孫、天突など
 - 血の病証……
 - 血虛：三陰交、膈俞、血海(太衝、足三里、脾俞)など
 - 血瘀：三陰交、膈俞、血海、太衝など

4、寒湿風火証治の選穴ポイント

- 寒の病証……豐隆、中腕、足三里、天突など
- 湿の病証……陰陵泉、三陰交、脾俞など
- 風の病証……列缺、曲池、外関、百会など
- 火の病証……行間、少府、内庭、前谷、然谷など

【まとめ2】五臟病証を例とした配穴トレーニング

- | | |
|-----------|-----------|
| 1、肺氣虛の場合は | 3、肝陰虛の場合は |
| 2、肺陰虛の場合は | 4、腎氣虛の場合は |
| | 5、腎陰虛の場合は |

【まとめ3】肝病証を例として

- 1、肝虛……曲泉、太衝、肝俞など
 - ①肝血虛……十血海、膈俞、三陰交
 - ②肝陰虛……十復溜
- 2、肝実……行間、太衝、肝俞
 - ①肝鬱……十太衝、期門
 - ②肝火……十行間
 - ③肝陽……十太衝
 - ④肝風……十風池

第3章 手技について

資料1 手技に関する資料

刺入角度の問題

例：風池穴

治療目的に応じた刺入角度、深さ、手技[刺入後の操作]

- ① 催氣法について
- ② 刺激量について

資料2 補瀉手技について

補瀉について[動的補瀉法、静的補瀉法]

- ①捻転については「親指を前に出すと補、親指を後ろに引くと瀉」
- ②提挿については、「入れると補、出すと瀉」

1. 捻挫補法と捻挫瀉法 動
2. 捻転補法と捻転瀉法 動
3. 提挿補法と提挿瀉法 動
4. 熱補法と涼瀉法応用 静

【説明】

捻挫補瀉法は一般的に臟腑病証に多く用いられ、提挿補瀉法は一般的に経絡病証に対して疏通経絡を目的に多く用いられています。捻転補法は求心性に90度、捻挫瀉法は遠心性に180度の角度で捻転する。求心性か遠心性かに関しては、石学敏先生の鍼刺量学の定義も同様、九六補瀉手技の定義も同様である。

九六では母指を前に出しすなわち求心性の動きが95度の回転角度で続けて9回捻転すると補法になる。一方、母指を後ろへ引きすなわち遠心性の動きが180度の回転角度で続けて6回捻転すると瀉法になる。

ちなみに『難経』七十八難には、「氣を得て因って推してこれを内いる、これを補と謂う、動じてこれを伸す、これを瀉と謂う」とあります。

資料3 他の手技についての紹介

1. 刮法
2. 彈法
3. 顛法
4. 敲法
5. 飛經走氣法[三進一退、一進三退]

資料4 専門領域の開拓(専病専治)

1. 脳血管障害(牧田ヒナオ):統合リハビリの一例
2. 高齢者医療
 - ①認知症予防、転倒予防、誤嚥予防など
 - A) 緑内障
 - B) メンタルヘルスマテラ
3. [臨床応用例] 感象理論を使った治療例
 - ①東北大学大学院医学系研究科 関 隆志先生の研究
4. 「高齢者のための中国(伝統医学)」
 - ①腎精不足

腎精不足により老化現象が現れるので、まず高齢者にアプローチする前に腎精不足について簡単にみておきましょう。

5. 治療困難な誤嚥性肺炎

誤嚥性肺炎は死の病であり、誤嚥は繰り返すので治療以前に予防することが大切である。

【仮説】: 吸気(腎の納気)と嚥下(胃の和降)の働き調節 → 誤嚥が減少?

選穴: 腎経の原穴[太谿]、胃経の合穴[足三里]

[解説] 前述した五臓の調節を目的として原穴を選穴した。合穴には逆気を降ろす作用があり、胃の和降を助ける作用があることから、胃経の足三里を選穴した。

6. 嚥下反射を改善する足三里と太谿への鍼治療

41名の脳血管障害の慢性患者(平均年齢 75.9 才)を対象とした。1mlの蒸留水を咽頭に直接注入し嚥下の開始までの時間を計って嚥下反射の潜伏(秒)とした。左右の足三里と太谿にステンレス製の鍼を刺し、15 分間置鍼したのち抜鍼した。鍼を刺す直前に抜鍼の直後に嚥下反射の潜伏を測定したところ、鍼治療後著明に改善した。

7. 太谿と足三里の鍼治療の嚥下造影検査による検討

脳血管障害による誤嚥の既往のある高齢者(平均年齢 84.8 才)32 名を無作為に2群に分け、鍼治療群には週に3回、4 週間治療を施行した。対照群は誤嚥・咽頭残留ともに4 週間で大きな変化はなかったのに対して、鍼治療群では誤嚥が完全に消失し、咽頭残留も減少した。

8. 転倒予防

高齢者の歩行障害を改善する太谿、足三里、腎俞への鍼治療

高齢者の転倒は寝たきりの要因である。歩行障害は転倒の重要な危険因子の1つである。歩行障害を有する平均年齢 76.8 才の患者 27 名を対象にし、鍼治療群 15 名と対照群 12

名とにわけた。左右の太谿、足三里、腎俞に 15 分間置鍼し抜鍼した。1 回の鍼治療によって The Timed Up & Go Test(TUGT)が改善した。その後、2 週間に1 回の鍼治療を1 年間施行した。1 年間に対照群では ADL は低下するが、鍼治療群では逆に改善が認められた。

9. 【小結】老人疾患に対する鍼灸治療

- A) 太谿、足三里、腎俞……転倒予防
- B) 2、太谿、足三里、……誤嚥性肺炎の予防
- C) 3、太谿、足三里、風池……物忘れ

資料5 資料4に関連させて

手技なしで有効となるケース研究の重要性[治療効果の再現性]

誤嚥予防、転倒予防、緑内障など東北大の関先生の実績を例として

中医学の臟腑理論にもとづいた選穴、配穴によるアプローチ[日本東洋医学会]

資料6 選穴、配穴の重要性

【鍼灸処方・配穴トレーニング】

- 1、 補中益気方[合谷、足三里]
- 2、 八珍方 [合谷、三陰交]
- 3、 人參養榮方[合谷、三陰交、神門]
- 4、 帰脾方 [三陰交、神門]
- 5、 腎氣方 [關元、復留、腎俞]
- 6、 清胆瀉肝方[大衝または行間、丘墟、陽陵泉]
- 7、 行氣活血方[關使、三陰交]
- 8、 痰湿方 [陰陵泉、豊隆]
- 9、 滋陰清火方[神門、復留]

【健康度チェック表】